里地・里山活性化プロジェクト
～都市と地方を環境教育で結ぶ～

甲野　毅　教授
（家政学部　ライフデザイン学科）

【目的】

全国で耕作放棄地が増加し、また人の手により管理されるべき森林が放棄され、その結果、里地・里山が荒廃している。また現在の子供たちは自然と触れ合う機会が減少しており、自然との距離が開いている状態にあると言える。そこでこれらの問題を解決するために、私達が実施することは、実際に耕作放棄地に手を入れ、農産物を栽培し管理することで里地・里山を良好にすること、またその現状を様々な手段で都市住民に伝え、関心を喚起すること、さらに都市に住む子供達に自然と触れ合う環境教育の機会を提供することである。

【活動内容】

里地・里山での活動では、環境教育プログラムに使用できる可能性のあるハーブ類、サツマイモや果樹のブドウを NPO 法人が北杜市を通して借りている耕作放棄地で、学生が栽培した。これらの管理は草刈り、施肥、潅水、収穫など多岐にわたるので、地域住民の協力を得ながら行った。また古民家再生による地域活性化プランを考案し、地域住民に提案することを通し、学生の課題解決能力の向上を図った。

都市での活動では、行政と協働して立川市と千代田区の環境イベントや地域連携推進センターが主催する夏休み小学生講座に参加し、また立川市では学生独自の自然体験教育プログラムを実施した。そこでは耕作放棄地から産出された農産物や森林をテーマにした環境教育プログラムを企画、実施した。また学園祭では、里地・里山の現状また地域を活性化させるためのプランを、来訪者に発表し、都市住民の問題への関心の向上を図った。さらに奄美大島で栽培された国産コーヒーを通した SDGs 講座を開催した。その後、国産コーヒーの飲み比べ体験を都内のギャラリーで開催し、コーヒーの飲用を通して、気候変動問題と生物多様性の消失について考えてもらった。



千代田区環境イベント 学生が考えた環境教育プログラムの実施　パネル、クラフト等を駆使し人工林の現状を伝える



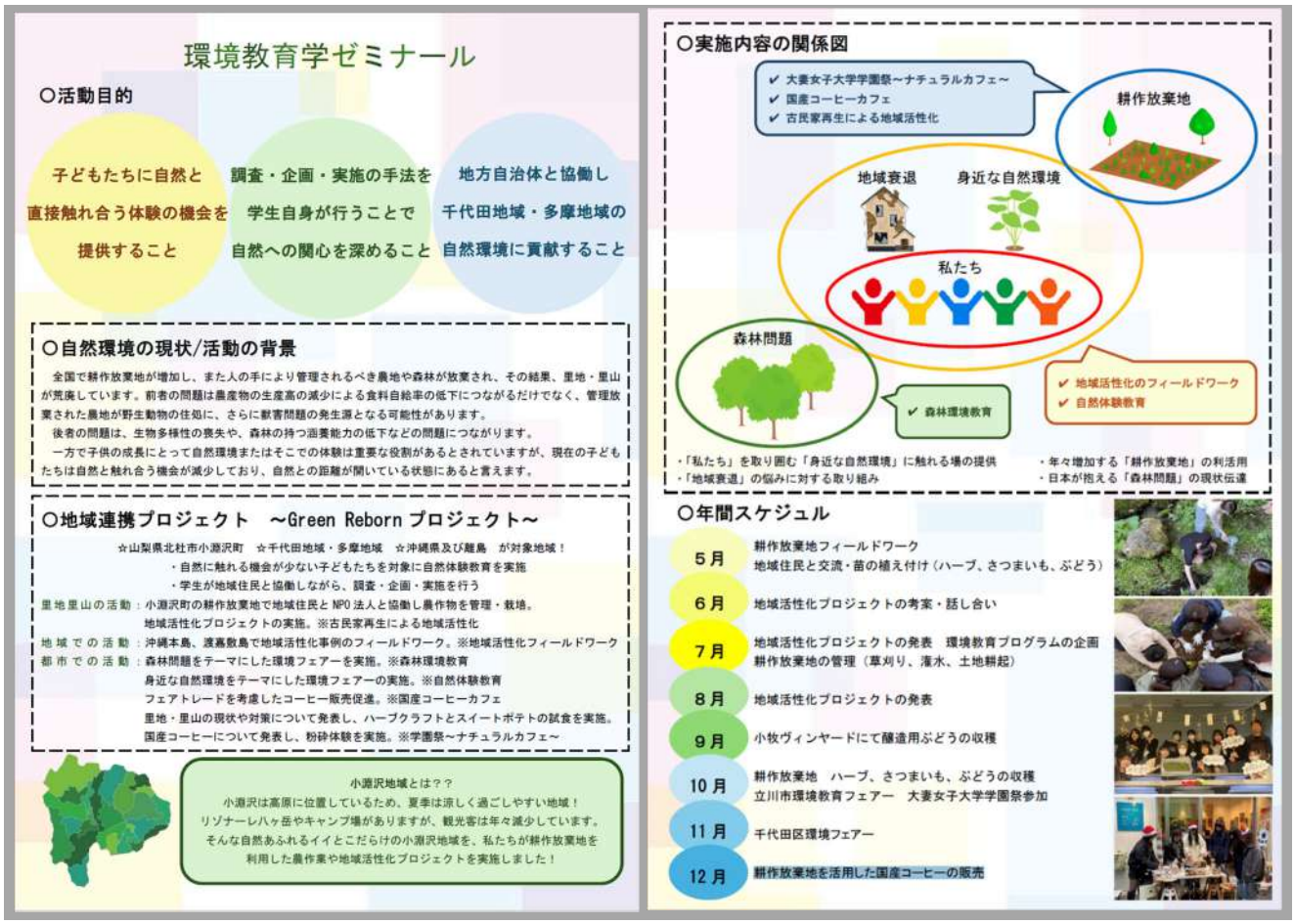
大妻女子大学学園祭で飲食物を無料配布またクラフト体験を実施　自然体験教育プログラムで企画内容を考案し実施

日程	内容　※１は里地・里山での活動　※２は都市活動での活動
5～6 月	古民家でのフィールドワーク　地域住民などからのレクチャー※1 耕作放棄地での苗の植付け（ハーブ・サツマイモ・ブドウ）※1
5～7 月	環境教育プログラムの企画　地域連携推進センター主催・夏休み小学生講座参加※2 古民家再生による地域活性化プランの考案※1
7 月	学生による古民家再生による地域活性化プランの提案（オンライン）※2
6～9 月	学生による耕作放棄地の管理（夏の草刈り・潅水）※1（地域住民、教員による耕作放棄地の管理）
10 月	学生による耕作放棄地での収穫※1
10 月	立川市環境フェア―参加・大妻女子大学学園祭参加 環境教育プログラム実施※2
11 月	立川市自然体験教育プログラム実施※2 千代田区環境フェア―参加環境教育プログラム実施※2
12 月	耕作放棄地を活用した国産コーヒーの飲み比べ体験の企画・実践※2
12～2 月	地域連携プロジェクトブクレット作り

【結果】

立川市や千代田区の環境イベントまたは夏休み小学生講座では、多くの子供達に里山から排出される間伐材の利用促進を図る体験をしてもらった。自然体験教育プログラムでは、都市公園を 4 つのゾーンに分け、多数の子供達に 4 種類の自然体験教育を実施することができた。そして大妻祭では、小淵沢で生産したサツマイモを活用して、スィートポテトとハーブティーの飲食を通し、来園者に北杜市における自然環境の現状を理解してもらった。

これらの活動の効果の第 1 は、耕作放棄地が継続管理されることで新たな地域環境問題の発生が抑制された。また学生による古民家再生プランの提案が、地域住民に良いアイデアとなる可能性があった。第 2 に、子供への環境教育を行うことで、子供達の成長に良い効果を与えた。また成人にも里地・里山や耕作放棄地、国産コーヒーの現状を伝えることが出来、関心を喚起することができた。第 3 に、学生自身が主体となって行うことで、企画、実践力や課題解決能力を身につけることができた。



地域連携プロジェクトの内容を紹介したブックレット 2・3 頁